

八王子車人形 西川古柳座



三番叟



『三番叟』

『日高川入相花王』

■ 演出者
西川古柳座
五代目 西川古柳

江戸時代から伝わる車人形。
3つの車がついた箱形の車に腰掛けて、1人が操る、
特殊な一人遣いの人形芝居を、西川古柳座と車人形の
魅力をお楽しみください。



日高川清姫



日高川入相花王



五代目 西川古柳

●車人形とは

車人形は「ろくろ車」という、前に二個、後ろに一個の車輪がついた箱形の車に腰掛けて、一人の人形遣いが一体の人形を操る、特殊な一人遣いの人形芝居です。江戸時代の終わり頃、現在の埼玉県飯能市に生まれた山岸綱吉(初代西川古柳)が考案し、その後、近郊の神楽師(神事芸能を専業とする人)を中心に分布し、農山村や八王子織物の生産に関わる人の娯楽として親しまれてきました。現在は、八王子市の西川古柳座のほか、埼玉県三芳町の竹間沢、東京都西多摩郡奥多摩町の川野に車人形は伝えられています。

●西川古柳座

西川古柳座の前身は、瀬沼時太郎(二代目西川古柳)が、18~9歳の頃、初代西川古柳に弟子入りしたことから始まります。大正末から昭和初期にかけて、三田村高島、平吉次郎、河竹繁俊らの支援を受けました。はじめは、「西川連中」という名称を使って興行していたようですが、昭和13年の時太郎の記録では既に「八王子車人形」の呼称を使っています。古柳座の芸能は、初代西川古柳や、江戸の最後の人形遣い吉田冠十郎、文楽の吉田文昇らの指導を受けています。さらに、伝統的な車人形の操法を基礎として、新鮮な工夫を重ね、昭和56年には乙女文楽の技法を取り入れた「新車人形」を考案しました。また、技法のみならず、首や衣裳を始め、豊富な用具を多数保有し、さらに古柳座独自の用具なども考案して新作の上演も可能にしています。様々な工夫を凝らし、伝統的な人形芝居を伝承するとともに、西川古柳座は日本各地、さらに海外にまで、車人形の技法を通じて、地域文化・日本文化のあり方を将来に示しています。

2023年 6月10日(土)



チケット発売開始 4月14日(金)10時より

■ 開場 / 13:30 ■ 開演 / 14:00
■ 場所 / ひの煉瓦ホール 小ホール (日野市民会館)
(全席自由)
入場料 / 2,000円

【主催】日野市民会館(指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)
【企画】赤レンガプロジェクト

揭示番号: [000_000_000_0000]
揭示期間: 令和5年6月10日まで

チケット販売
お問合せ

ひの煉瓦ホール(日野市民会館) ☎ 042-585-2011 〒191-0016 東京都日野市神明1-12-1
【開館時間】9:00~21:30 【休館日】毎週月曜日、第二火曜日、年末年始
会館公式ホームページから24時間いつでもチケットをお求めいただけます。 <https://www.hino-kaikan.jp/>
赤レンガプロジェクト公式Twitterアカウント @hino_akarenga

